

教育新聞

発行所 教育新聞社
 〒110-0005
 東京都台東区上野3-17-7
 代表 電話 03(3832)3571
 FAX 03(3832)3570
 URL <http://www.kyobun.co.jp>
 E-mail kyoiku@kyobun.co.jp
 購読料 2625円(月額、税込)
 振替口座 00170-6-4369
 ©教育新聞社 2010
 週2回 月・木発行

分野を超えて 社会科 授業を 創る

新学習指導要領で
 求められるもの

玉川学園マルチメディア
 リソースセンター 研究員
 多賀 譲治

り、小国家が誕生した」とは、
 大多数の教科書の記述であ
 る。ここでのポイントは「水
 田技術の伝播」ということ
 である。

佐賀県菜畑遺跡(縄文晩
 期を訪れると、数段四方の
 水田が谷戸の小川沿いに点在
 している。中には一畝四方に
 も満たないものもあるが、こ

人間の技術が社会を変えていく

れらはまきれもない日本最古
 の水田であり、技術が未熟な
 ために水平面を開削すること
 が困難だったことの証でもあ
 る。

イネそのものは、既に600
 00年前の縄文時代前期に伝
 わってきたようで、縄文時代
 中葉から陸稲が栽培されてい
 たことは定説となりつつあ
 る。陸稲と水稲の違いはい
 までもなく連作ができること
 で、味も長く保存の利くこと
 と相まって、弥生時代になっ
 て水田の技術は急速に広ま
 っていた。

日本を創っていった水田と鉄

新学習指導要領「中学社
 会・歴史的分野」の記述で目
 を引くのが東アジアとの関係
 であり、特に古代・中世に集
 中している。これは近年とみ
 に進んだ日韓考古学の成果で
 もある。

あつたことと、日本の原型が
 古代にはほぼ形成されたとい
 う学習の中で教師がいくつかの
 視点を持つ重要性と、そのこ
 とを通じた「考える力」や
 「応用力」をほぐくむ歴史学
 習の一例を示してみたいと思
 う。

起きたと推定され、現在確認
 されている最北の遺跡は津軽
 地方にある。

米の収量は水田面積に比例
 しており、技術を得たところ
 では、村を挙げて水田を広げ
 ていったに違いない。やが
 て、水や土地をめぐる争い
 いも起こり、ムラの間に争い
 が起こるようになったため
 に、環濠集落が出現した。こ
 れは縄文時代にはなかったこ
 とで、技術の進歩が社会を変
 えていく一つの例ともいえ
 る。

そして、鉄器という第2の
 革新的な技術が日本に伝わ
 った。当初、鉄は朝鮮からの輸
 入品であったが、やがて原料
 を鑄造かして鉄器を作る遺跡
 も現れた。木製の道具とは比
 べものにならないほど作業効
 率が上げられる鉄製農具は、
 やがて武器にも加工されてク
 二同士の争いに大きな役割を
 果たすことになる。鉄を多く
 得た首長こそ開拓者であり支
 配者でもあったわけで、権威
 が形となって表れた巨大な古
 墳に鉄製品が副葬された理由
 もそこにある。

古代における「水田技術」
 と「鉄器の生産」、この2つ
 の意義を理解すれば、その後
 に続くわが国の歴史が、やは
 り「水田⇄米」を経済の基盤
 に置いていたことと、古代か
 ら現代に至るまでの農林水
 産、鉱工業、建設、製造な
 ど、あらゆるモノの生産が鉄
 なくしては成り立たないこと
 に気づくのである。

このように、教師が多様な
 視座を持つことで「技術」や
 「モノ」から見えてくる歴史
 があるのだ。

これと同様なのは各地で